

第26回 けんぶち絵本の里大賞



《作品名》

もうぬげない

《作者》

(作) ヨシタケ シンスケ

《出版社》

(株)ブロンズ新社

「そうだよ！ふくがぬげないんだったら、ぬがなきゃいいんだ！」

昨年10月の発売以来、インターネットを中心に「シュール!」「笑える」などと話題になったヨシタケシンスケさんの作品が本年度の大賞を受賞しました。

服を脱ごうをしたらひっかかって脱げなくなってしまった主人公の男の子は、それでも何とかなるだろうと開き直ってしまいます。「このまま大人になれるかな?」「ジュースを飲みたくなったらどうやって飲めばいいんだろう?」脱げないままでのこれからの生活を想像する男の子は、果たしてどんな結論へとたどり着くのでしょうか・・・?

男の子の豊かで独特な発想力、そしてお母さんの対応力に思わずクスっとしてしまいます。

10月3日、来館者が好きな絵本を選ぶ「けんぶち絵本の里大賞」の開票作業が、絵本の館で行われました。絵本の里大賞の投票期間中には道内外からたくさんの方が絵本の館を訪れ、9,183票が投票されました。今回の応募点数は340作品で、その中から第26回けんぶち絵本の里大賞に、ヨシタケシンスケさん(作)『もうぬげない』が決定しました。

びばからす賞には、北海道日本ハムファイターズ選手会(さく)・堀川真さん(え)「もりのやきゅうちーむ ふぁいたーず」、安武信吾・千恵・はなさん(原作)・魚戸おさむさん(文・絵)「はなちゃんのみそ汁」、のぶみさん(さく)「ママがおばけになっちゃった!」が受賞されました。

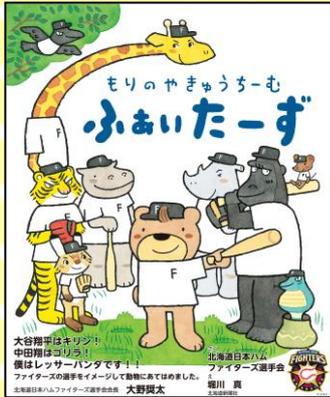
また、アルパカ賞には、松本春野さん(文・絵)・岩國哲人さん(原作)「おばあさんのしんぶん」が選ばれました。

受賞された作家の方たちは、来年2月19日開催予定の絵本の里大賞授賞式、歓迎レセプションや夜なべの会にご出席されますので、楽しみにしてください。



総投票者数・・・2,144人(昨年2,309人)
総投票数・・・9,183票(昨年9,893人)
期間中来館者数・・・7,659人(昨年9,108人)
投票期間・・・8月1日～9月30日

びばがらす賞



《作品名》
もりのやきゅうちーむ
ふあいたーず
《作者》
(さく) 北海道日本ハム
ファイターズ選手会
(え) 堀川真
《出版社》
(株)北海道新聞社

紋別出身の堀川真さんが
現役ファイターズの選手を
イメージして作った動物の
キャラクターたちが登場す
るかわいい野球のお話。

「だれでもしぶんをいか
せるばしょがある」という
大切なメッセージが込めら
れています。



《作品名》
はなちゃんのみそ汁
《作者》
(原作) 安武信吾・
千恵・はな
(文・絵) 魚戸おさむ
《出版社》
(株)講談社

過去には映画・ドラマ化
もされたベストセラーの実
話エッセイの絵本です。

小学生のはなちゃんが早
起きをして“おだし”からつ
くるおみそ汁には、はなち
ゃんのパパを思う気持ちと
とママの家族を思う気持ち
が入っています。



《作品名》
ママがおばけになっ
ちゃった！
《作者》
(さく) のぶみ
《出版社》
(株)講談社

子供番組のキャラクター
などを手掛ける人気作家の
のぶみさんが描く、死んでお
ばけになっちゃったママと
その4歳の息子かんたろう
の一晚の物語。

おばけになってしまっ
ても伝えたい、ママの思いが
詰まった絵本です。

アルパカ賞



《作品名》
おばあさんのしんぶん
《作者》
(文・絵) 松本春野
(原作) 岩國哲人
《出版社》
(株)講談社

どうしても新聞を読みた
い主人公の少年てつおと、
そなたつおに「読みにお
いで」と言ってくれるおば
あさんとのお話。

原作者の岩國哲人さんが
少年時代に新聞を通して触
れたおばあさんのやさしさ
を、松本春野さんの絵があ
たたかくやわらかく表現し
ています。